

今年の春はいつまでも暖かくならず、41年ぶりに4月半ばに大雪になりました。日照不足で農作物の生育も心配されています。春キャベツが先日は1個400円近くの値段がついて驚きました。それでも周りの木々を見ると、日ごとに新緑が濃くなり、季節は確実に変わっていていることを感じます。気候も景気も、暖かい安定した日差しに一日も早く戻ってほしいものです。

今回は、本院の専門外来のひとつである、血管病外来のご紹介と、昨年7月から本院で開始になった新しい入院医療費の請求方法の「DPC（包括評価方式）」について、ご説明させていただきます。

当院では毎週水曜午後に血管病の専門医である、熊倉内科部長の血管病外来があります。外来の紹介を、熊倉内科部長からしていただきました。ご覧下さい。

血管病外来の紹介

当院では、毎週、水曜午後に血管病の専門外来を行っております。特に、足の血行障害、足の血管の閉塞による閉塞性動脈硬化症を中心に、足の血管病の診断と治療を行っております。まずは、超音波やサーモグラフィー、ABIなどの無侵襲診断装置を使用して検査し、適切な診断を行います。

(重症度分類より)

1度:足が冷たい、しびれる。(無症状の場合も多い)

2度:少し歩くと足が痛くなり、休むとまた歩けるようになる。(間歇性跛行と言います)

3度:安静していても足が痛く、皮膚の血色が悪い。(安静時疼痛)

4度:足の傷の治りが悪く、潰瘍や黒色の皮膚変化がある。(潰瘍、壊疽の状態)

* 3度、4度は重症虚血肢とされ早急な治療が必要になります。

その他、手足の動脈だけでなく、下肢静脈の障害や静脈瘤、全身血管(頸動脈,腎動脈,胸部・腹部大動脈)の診断や治療、血管年齢や動脈硬化度などを診断します。

* 上記のような症状があり、ご心配されている患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひ一度受診してみてもいかがでしょうか。

[血管病専門外来] 毎週水曜日 14:00~16:00(要予約)

[管病セカンドオピニオン外来] 月・水・土曜日 11:00~12:00(要予約)

新しい入院医療費の請求方法「DPC」とは

今までの入院医療費の計算方法は、注射、投薬、手術、検査、入院費等の実施した内容を計算した合計が入院医療費として請求されました(出来高方式)。現在の請求方法である「DPC」は、入院患者さんの病名、傷病名によって、注射、投薬、検査、入院費等が、1日当たり一定の医療費が決められており(包括評価部分)、これに手術、麻酔、リハビリ等(出来高評価部分)を

合計した金額が入院医療費になります。「DPC」は、診療の標準化、診療の質の向上を図るために導入されました。

「DPC」はすべての入院患者さんが対象になるわけではありません。病名、怪我によっては、今までどおり（出来高方式）になります。また、自費診療、労災保険、自賠責保険適用で入院された方も（出来高方式）になります。

「DPC」には、いままでの方法といくつかの点で違いがありますので、ご説明いたします。

- ・ 医療費の支払い方法は、月毎の支払い（退院の時は退院時）になります。
- ・ 原則として主病名以外の検査、治療は行うことができません。ただし、医師の判断により、必要な検査、治療は行います。
- ・ 入院中は主治医が必要と認めた場合以外に、他の病院の診察、治療等を受けることはできません。他の病院からお薬が処方されている患者さんは、入院時に入院中必要なお薬を処方してもらい、持参してください。また、入院中、持参のお薬がなくなってしまった場合、必ず、主治医または病棟師長にご相談ください。入院中、他の病院に受診したり、お薬を処方してもらう場合、事前に受診する病院に連絡後、受診していただきます。

- * 「DPC」になりましても、高額療養費制度の取り扱いはいままでと同様です。限度額適用認定証の交付を受ければ、一ヶ月の支払いが自己負担限度額までである制度も同様です
- * 「DPC」について、ご不明な点やご質問がございましたら、中央受付または病棟事務にお問い合わせください。

以上、血管病外来、「DPC」についてご説明させていただきました。何か、ご不明なことや、ご心配なことがございましたら、いつでも病院のソーシャルワーカーにお声をかけてください。

北関東循環器病院
地域連携室・医療相談室

